

開設	都市創造学科
科目ナンバー	2016～2019年入学生：UC316 2020年入学生～：UC103
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1UC000400
講義名	地域コンテンツプロデュース論
担当者名	林 聖子
開講情報	秋期 火曜日 2時限 552教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U

備考

科目の趣旨 地域の地場産業や天然資源といった地域コンテンツを発掘、発信し、地域の活性化や産業振興に結びつけるプロデュースのあり方を考える科目。地域に集積する中小企業群が保有する特殊な技能や地域の物産など、地域にはさまざまな都市コンテンツが活かされないまま眠っている。こうした地域固有の都市コンテンツ（地域コンテンツ）の発掘が、どのようになされ、また、発信されているか、特徴的な事例の中に地域コンテンツプロデュースの理想像を探求する。

授業の内容

- ・地域の活性化や地域産業振興に必要な地域コンテンツとしての地域資源とは何かを学ぶ。
- ・新たな経済的等の価値を創出するイノベーションについて学ぶ。
- ・地域資源としての地域産業を構成する大企業や中小企業群等によるイノベーション創出や新たな地域産業集積を学び、課題などを考察する。
- ・地域産業を牽引し、地域への波及効果がある特徴的なオンリーワン企業等について学び、発展要因を考察する。
- ・サイエンスパークを形成し、大学発ベンチャー等の地域資源による発展を学び、新しいタイプの地域産業振興を考察する。
- ・拡大志向でない持続可能なまちづくりを海外のポートランドから学び、持続可能な要因等を考察する。
- ・地域コンテンツを発掘し、活用して地域産業振興につなげていくプロデュースについて学ぶ。

科目の到達目標
(理解のレベル)

1. 地域コンテンツとしての地域資源についてとイノベーションについて理解できる。
2. 地域中小企業群による新たな地域産業集積を理解できる。
3. 地域産業を牽引できる特徴的な企業について発展要因等を考察できる。
4. 新しいタイプの地域産業振興について考察できる。
5. 持続可能なまちづくりについて理解できる。
6. 地域コンテンツを発掘し、活用して地域産業振興につなげているプロデュースについて考察できる。

7. グループディスカッションを通して、他者の多様な視点を学びながら、地域コンテンツや地域産業振興の課題等の考察やプレゼンテーションのまとめを協働できる。

授業形態 講義

・本科目は13回のうち10回を対面授業、3回をZoomによるオンライン授業を行う予定で、オンライン授業については授業中に指示する。

・授業関連ニュース・資料提示・課題提出については授業支援システムmanabaを利用し、出欠はresponを利用する。

授業方法

・授業（理論、知識、事例等を紹介）とグループワーク（グループ別ディスカッションとプレゼンテーション）を組み入れた、参加型授業として進めていく。

・グループワーク（グループ別ディスカッションとプレゼンテーション）は、他者やクラス全体からの多様な視点やアドバイス等を共有する。

【第1回】オリエンテーションと地域コンテンツとは何か

内容：本授業の全体像を示し、学びの焦点を説明する。地域の活性化や地域産業振興に必要な地域コンテンツとしての国内の地域資源について説明する。さらに、経済的等の新たな価値を創出するイノベーションについて説明する。

課題：地域コンテンツとしての国内地域資源について検討する。イノベーションについて検討する。

【第2回】米国の事例

内容：米国シリコンバレーとオースチンを取りあげ、産学公それぞれが果たす役割や連携によるイノベーション創出等を紹介する。

課題：米国のシリコンバレーとオースチンのイノベーション創出等を検討する。

【第3回】東北地域自動車産業：新たな産業集積事例とグループディスカッション

内容：コンパクトカーの国内生産拠点として東北で自動車産業を振興するために、サプライヤーとして地域中小企業群を活用した産業集積の構築について学び、東北地域自動車産業の課題や対応策について、グループ別にディスカッションを行う。

課題：東北地域の自動車産業の最新情報を探索する。

【第4回】東北地域自動車産業：新たな産業集積のプレゼンテーションと考察

内容：東北地域自動車産業の課題や対応策について、グループ別にプレゼンテーションを行い、考察する。

課題：東北地域自動車産業の今後について検討する。

【第5回】次世代自動車産業：世界シェアナンバー1企業多摩川精機事例とグループディスカッション

内容：地域産業振興のために戦前創業した多摩川精機が、ハイブリッドカーへの参入から世界シェアナンバー1へと発展した経緯と経営戦略等を学ぶ。多摩川精機が世界シェアナンバー1に発展できた要因等をグループ別にディスカッションを行う。

課題：多摩川精機の最新情報を探索する。

【第6回】次世代自動車産業：多摩川精機発展要因のプレゼンテーションと考察

内容：多摩川精機が世界シェアナンバー1に発展できた要因等についてグループ別にプレゼンテーションを行い、考察する。

課題：多摩川精機の今後について検討する。

【第7回】企業主導の産学公連携活用型新規事業開発：タカノ事例とグループディスカッション

内容：企業主導の産学公連携活用による新規事業開発を行なっている地域の隠れたチャンピオン企業タカノが下請け型中小企業から一部上場企業に発展した経営マインド、経営力や技術開発力を学ぶ。タカノが産学公連携活用により新規事業開発を行うことで、一部上場企業に発展した要因をグループ別にディスカッションを行う。

課題：タカノの最新情報を探索する。

授業計画

【第8回】企業主導の産学公連携活用型新規事業開発：タカノ発展要因のプレゼンテーションと考察

内容：タカノが産学公連携活用により新規事業開発を行うことで、一部上場企業に発展した要因等についてグループ別にプレゼンテーションを行い、考察する。

課題：タカノの今後について検討する。

【第9回】大学を核とした新しいサイエンスパーク：大学発ベンチャー事例とグループディスカッション

内容：慶應義塾大学鶴岡キャンパス発ベンチャー創出状況、民間主導に移行した鶴岡のサイエンスパークの挑戦と新しい地域産業振興を学び、大学発ベンチャー起業要因等についてグループ別にディスカッションを行う。

課題：慶應義塾大学鶴岡キャンパス発ベンチャーの最新情報を探索する。

【第10回】大学を核とした新しいサイエンスパーク：大学発ベンチャーのプレゼンテーションと考察

内容：鶴岡の事例を通して大学発ベンチャー起業要因等についてグループ別にプレゼンテーションを行い、考察する。

課題：慶應義塾大学鶴岡キャンパス発ベンチャーの今後について検討する。

【第11回】持続可能な街づくり：米国ポートランド事例とグループディスカッション

内容：地域資源を活用しながら、住民と産業が共生し、必ずしも拡大志向ではない持続可能な街づくりを展開しているポートランドについて学ぶ。ポートランドで持続可能な街づくりを展開できた要因をグループ別にディスカッションを行う。

課題：ポートランドの最新情報を探索する。

【第12回】持続可能な街づくり：米国ポートランドのプレゼンテーションと考察

内容：ポートランドで持続可能な街づくりを展開できた要因をグループ別にプレゼンテーションを行い、考察する。

課題：ポートランドの今後について検討する。

【第13回】地域コンテンツの発掘から地域産業振興につなげるプロデュース

内容：地域コンテンツを発掘し、連携しながら活用し、地域産業振興につなげていくプロデュースについて学び、将来を展望する。

課題：地域コンテンツの発掘から地域産業振興につなげるプロデュースについて検討する。

レポートについては授業中に別途指示する。

事前・事後
学修に必要な時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後
学修の内容

・授業前にシラバスの教科書・指定図書欄に掲載の参考書（書籍、論文）等を熟読し、地域コンテンツ、地域資源、地域産業振興、イノベーション等の基礎知識や事実関係等を修得し、問題意識をもって授業にのぞむこと。

・授業後には授業支援システムmanabaレポートに毎回出題する課題に取り組むとともに、manabaコースコンテンツに掲載の授業配布資料と、前掲の参考書等を再読し、授業で学んだ知識をより確実なものにするとともに、問題意識を深め、地域コンテンツたる地域資源を活用してイノベーションを創出する地域産業振興について考察していく。

成績評価方
法・基準

・平常点（授業での発言や質問等参加度、グループプレゼンテーションにおける質問やコメント等）と課題（毎回指示する課題テーマを的確に把握して回答できているかどうか等）で40%

・グループディスカッション（その都度指示するディスカッションテーマを正しく認識し、グループメンバーと積極的にディスカッションできているかどうか）とグループプレゼンテーション（プレゼンテーション、パワーポイント作成への貢献度）で30%

課題（試験
やレポート
等）につい
てのフィー
ドバック方
法

- ・レポート（内容は授業中に指示）で30%

課題は授業中に説明し、授業支援システムmanabaレポートに毎回出題し、manabaレポートでの提出を求める。次回の授業冒頭で課題について学生にショートプレゼンをさせ、正しく理解できているかどうか等確認し、授業内で講評・解説をおこなう。

【教科書】教科書は使わず、配布資料を授業支援システムmanabaコースコンテンツに掲載する。

【参考書】

- ・林聖子：「第1章 イノベーション研究の動向と目指す方向—研究・イノベーション学会のアプローチと地域産学連携スタイル—」長沢 伸也編『イノベーションの創出—仕組み、社会実装、技術—(横幹〈知の挑戦〉シリーズ)』晃洋書房, 2024.
- ・清水洋：『イノベーションの科学・創造する人・破壊される人』, 中央公論新社（中公新書）, 2024.
- ・清水洋：『イノベーションの考え方』, 日経BP/日本経済新聞出版（日経文庫）, 2023.
- ・清水洋：『イノベーション』, 有斐閣, 2022.
- ・長内厚他：『イノベーション・マネジメント』, 中央経済社, 2021.
- ・林聖子：コロナ禍でも産学連携でイノベーションを創出し続ける堀切川モデル, 都市創造学研究, 第5号, 87-97, 2021.
- ・林聖子：中小企業のイノベーション創出を支援する堀切川モデルによる地域産業振興, 都市創造学研究, 第4号, 87-105, 2020.
- ・林聖子：地域産業振興を促進するための公設試験研究機関の支援機能, 都市創造学研究, 第2号, 43-60, 2018.
- ・林聖子：地域産業振興を促進する中小企業のイノベーション創出支援機能, 都市創造学研究, 1(1), 101-116, 2017.
- ・山崎満広編：『ポートランド・メイカーズ クリエイティブコミュニティの作り方』, 学芸出版社, 2017.
- ・山崎満広：『ポートランド 世界で一番住みたい街をつくる』, 学芸出版社, 2016.
- ・産学連携学会編：『テキスト産学連携学入門（改定版）』上・下巻, 産学連携学会, 2016.
- ・林聖子：東北地域の自動車産業における地域中小等サプライヤーの実態と参入等支援について, 産業立地, 53(4), 33-37, 2014.
- ・山下勝：『プロデューサーシップ—創造する組織人の条件』, 日経BP社, 2014.
- ・福嶋路：『ハイテク・クラスターの形成とローカル・イニシアティブ—テキサス州オースティンの奇跡はなぜ起こったのか』, 東北大学出版会, 2013.
- ・堀井朝運：『実践 中小企業の経営組織革新—イノベーションは誰でも起こせる』, 中央経済社, 2013.

教科書・指
定図書

・ハーマン・サイモン、上田隆穂監訳：『グローバルビジネスの隠れたチャンピオン企業』，中央経済社，2012.

・アナリー・サクセニアン、山形浩生訳：『現代の二都物語』，日経BP社，2009.

・佐々木直彦：『プロデュース能力ービジョンを形にする問題解決の思考と行動』，日本能率協会マネジメントセンター，2008.

・柳孝一，堀井朝暉：『実践中小企業の新規事業開発一町工場から上場企業への飛躍』，中央経済社，2007.

・内容が関連している「産学公連携プロデュース論」をあわせて受講することを推奨する。

・授業での積極的な発言、グループワーク（ディスカッションとプレゼンテーションの検討）への熱心で協調性ある参加を求める。

・毎回の授業は連続又は関連しているので、欠席(無断欠席厳禁)した際には授業支援システムmanaba掲載内容を確認し、授業配布資料を熟読して学習し、課題を提出すること。

・授業改善のための学生アンケートを実施する。

履修上の留意点

更新日

2025/3/19

開設	都市創造学科
科目ナンバー	2016～2019年入学生：UD212 2020年入学生～：UC209
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1UC002100
講義名	産学公連携プロデュース論
担当者名	林 聖子
開講情報	春期 火曜日 2時限 552教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	
科目の趣旨	産学公連携による都市のイノベーションの事例を検討し、産学公連携のプロデュースの要諦を学ぶ科目。都市の活性化等をテーマとして都市のイノベーションプロジェクトの事例を解説し、そこでのプロデューサーの役割や求められた能力を検討する。特に、産学公が連携することの難しさを理解させ、プロデューサーの機能の重要性を認識させる。
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・人を幸せにする都市（地域や街を含む）の活性化には経済的価値を生み出す産業振興が重要で、そのためにはイノベーション創出が必要である。グローバルな環境や市場動向が刻一刻と変化する中で、企業等が単独でイノベーションを創出することは難しい状況であり、連携が必要となるので、連携の中でも重要な手法である産学公連携について学ぶ。 ・イノベーションについて説明する。 ・産学公連携に関連する政策等を学び、産学公連携によるイノベーション創出の国内外の事例を通し、その難しさ、必要な産学公連携のプロデュース機能や役割等を学習する。 ・プロデュース機能を担うプロデューサーの役割や求められる能力を検討する。
科目の到達目標（理解のレベル）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 産業振興にはイノベーション創出が必要なことと、イノベーションについて理解できる。 2. イノベーション創出には連携が必要で、その手法である産学公連携についての知識や関連する政策を理解できる。 3. 産学公連携によりイノベーションを創出している事例から、産学公連携の難しさを把握できるとともに、連携に必要なプロデュース機能やプロデューサーの役割等を考察できる。
授業形態	講義
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は13回のうち10回を対面授業、3回をZoomによるオンライン授業を行う予定で、オンライン授業については授業中に指示する。 ・授業関連ニュース・資料提示・課題提出については授業支援システムmanabaを利用し、出欠はresponを利用する。 ・授業（理論、知識、事例等を紹介）とグループワーク（グループ別ディスカッションとプレゼンテーション）を組み入れた、参加型授業として進めていく。 ・グループワーク（グループ別ディスカッションとプレゼンテーション）は、他者やクラス全体からの多様な視点やアドバイス等を共有する。

【第1回】オリエンテーションと産学公連携プロデュースとは何か

内容：本授業の全体像を示し、学びの焦点を説明する。都市や地域の活性化には産業振興が必要で、産業をとりまくグローバルな状況等を概観する。イノベーションについて説明する。産業振興にはイノベーションが必要なこと、イノベーション創出は単独では難しく、連携が必要で産学公連携が重要なこと、連携の為のプロデュースの必要性についてを説明する。

課題：イノベーションについてと産学公連携とプロデュースについて考察、検討する。

【第2回】日本における産学公連携に関連する政策

内容：産学公連携に関連する政策として、日本における産業立地政策、科学技術政策、クラスター政策、イノベーション政策等について説明する。

課題：日本における産学公連携政策について考察、検討する。

【第3回】米国における産学公連携に関連する政策

内容：産学公連携に関連する政策として、米国におけるSBIRやプロパテント政策(ヤングレポート)からプロイノベーション政策(パルミサーノレポート)等について説明する。

課題：米国における産学公連携政策について考察、検討する。

【第4回】産学公連携事例①：サッポロバレーとグループディスカッション

内容：ITの技術革新と並行しながら、北海道大学教授を核として産学公連携により札幌にIT関連の各種イノベーションが創出され、IT産業が集積した変遷を学ぶ。サッポロバレーの発展要因や課題等についてグループ別にディスカッションを行う。

課題：サッポロバレーにおける課題を検討する。

【第5回】産学公連携事例①：サッポロバレーのプレゼンテーションと考察

内容：サッポロバレーの発展要因や課題等についてグループ別にプレゼンテーションを行い、考察する。

課題：サッポロバレーバレーの今後について検討する。

【第6回】産学公連携事例②：仙台堀切川モデルとグループディスカッション

内容：東北大学教授・コーディネータ・行政等が支援チームを形成し、中小企業とイノベーションを共に創出している仙台堀切川モデルを学ぶ。仙台堀切川モデルが継続的に中小企業とイノベーションを創出できている要因や課題等についてグループ別にディスカッションを行う。

課題：仙台堀切川モデルにおける課題を検討する。

【第7回】産学公連携事例②：仙台堀切川モデルのプレゼンテーションと考察

内容：仙台堀切川モデルが継続的に中小企業とイノベーションを創出できている要因や課題等についてグループ別にプレゼンテーションを行い、考察する。

課題：仙台堀切川モデルの今後について検討する。

【第8回】産学公連携事例③：福岡システムLSIの集積とグループディスカッション

内容：産学公連携により福岡に新たな産業としてシステムLSIを集積させた全体像を学ぶ。福岡システムLSIの集積要因や課題等についてグループ別にディスカッションを行う。

課題：福岡システムLSIの集積における課題を検討する。

【第9回】産学公連携事例③：福岡システムLSIの集積のプレゼンテーションと考察

内容：福岡システムLSIの集積要因や課題等についてグループ別にプレゼンテーションを行い、考察する。

課題：福岡システムLSIの集積の今後について検討する。

【第10回】産学公連携事例④：函館マリンバイオクラスターとグループディスカッション

内容：函館の公設試験研究機関が核となり、マリンバイオクラスター形成を牽引し、産学公連携により多数のイノベーションが創出した全体像を学ぶ。函館マリンバイオクラスターの発展要因や課題等についてグループ別にディスカッションを行う。

課題：函館マリンバイオクラスターにおける課題を検討する。

【第11回】産学公連携事例④：函館マリンバイオクラスターのプレゼンテーションと考察
内容：函館マリンバイオクラスターの発展要因や課題等についてグループ別にプレゼンテーションを行い、考察する。
課題：函館マリンバイオクラスターの今後について検討する。

【第12回】産学公連携事例⑤：岩手県紫波町オガールプロジェクトとグループディスカッション
内容：岩手県紫波町で補助金を使わない民間主導による新しいタイプの公民連携の取り組みであるオガールプロジェクトの構築プロセス等を学ぶ。オガールプロジェクトの発展要因や課題等についてグループ別にディスカッションを行う。
課題：オガールプロジェクトにおける課題を検討する。

【第13回】産学公連携事例⑤：岩手県紫波町オガールプロジェクトのプレゼンテーションとまとめ
内容：岩手県紫波町オガールプロジェクトの発展要因や課題等についてグループ別にプレゼンテーションを行い、考察する。都市の活性化等を実現するための、産学公連携によるイノベーション創出を担う組織が担うプロデュース機能、プロデューサー等を担うプロデューサー等の役割や機能等を整理し、将来像を展望する。
課題：函館マリンバイオクラスターの今後について検討する。

レポートについては授業中に別途指示する。

事前・事後
学修に必要な時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後
学修の内容

- ・授業前にシラバスの教科書・指定図書欄に掲載の参考書（書籍、論文）等を熟読し、産学公連携関連、イノベーション創出、プロデュース機能、プロデューサーの役割、産業を取り巻くグローバルな状況等の基礎知識等を修得し、問題意識をもって授業にのぞむこと。
- ・授業後には授業支援システムmanabaレポートに毎回出題する課題に取り組むとともに、manabaコースコンテンツに掲載の授業配布資料と、前掲の参考書等を再読し、授業で学んだ知識をより確実なものにするとともに、問題意識を深め、産学公連携を活用したイノベーション創出及び地域産業振興、プロデュース機能、プロデューサーの役割、産業を取り巻くグローバルな状況等について考察していく。

成績評価方法・基準

- ・平常点（授業での発言や質問等参加度、グループプレゼンテーションにおける質問やコメント等）と課題（毎回指示する課題テーマを的確に把握して回答できているかどうか等）で40%
- ・グループディスカッション（毎回のディスカッションテーマを正しく認識し、グループメンバーと積極的にディスカッションできているかどうか）とグループプレゼンテーション（プレゼンテーション、パワーポイント作成への貢献度）で30%
- ・レポート（内容は授業中に指示）で30%

課題（試験
やレポート
等）について
のフィード
バック方法

課題は授業中に説明し、授業支援システムmanabaレポートに毎回出題し、manabaレポートでの提出を求める。次回の授業冒頭で課題について学生にショートプレゼンをさせ、正しく理解できているかどうか等確認し、授業内で講評・解説をおこなう。

【教科書】教科書は使わず、配布資料を授業支援システムmanabaコースコンテンツに掲載する。

【参考書】

・林聖子：「第1章 イノベーション研究の動向と目指す方向－研究・イノベーション学会のアプローチと地域産学連携スタイル」長沢 伸也編『イノベーションの創出－仕組み

み、社会実装、技術—(横幹〈知の挑戦〉シリーズ)』晃洋書房, 2024.

・清水洋:『イノベーションの科学-創造する人・破壊される人』, 中央公論新社(中公新書), 2024.

・清水洋:『イノベーションの考え方』, 日経BP/日本経済新聞出版(日経文庫), 2023.

・清水洋:『イノベーション』, 有斐閣, 2022.

・長内厚他:『イノベーション・マネジメント』, 中央経済社, 2021.

・林聖子:コロナ禍でも産学連携でイノベーションを創出し続ける堀切川モデル, 都市創造学研究, 第5号, 87-97, 2021.

・林聖子:中小企業のイノベーション創出を支援する堀切川モデルによる地域産業振興, 都市創造学研究, 第4号, 87-105, 2020.

・入山章栄:『世界標準の経営理論』, ダイヤモンド社, 2019.

・チャールズ・A. オライリー, マイケル・L. タッシュマン, 入山章栄監訳・解説, 富山和彦解説, 渡部典子訳:『両利きの経営』, 東洋経済新報社, 2019.

・林聖子:地域産業振興を促進するための公設試験研究機関の支援機能, 都市創造学研究, 第2号, 43-60, 2018.

・林聖子:地域産業振興を促進する中小企業のイノベーション創出支援機能, 都市創造学研究, 創刊号, 101-116, 2017.

教科書・指
定図書

・産学連携学会編:『テキスト産学連携学入門(改訂版)』上・下巻, 産学連携学会, 2016.

・猪谷千香:『町の未来をこの手でつくる紫波町オガールプロジェクト』, 幻冬舎, 2016.

・入山章栄:『ビジネススクールでは学べない世界最先端の経営学』, 日経BP社発行/日経BPマーケティング発売, 2015.

・山下勝:『プロデューサーシップ—創造する組織人の条件』, 日経BP社, 2014.

・林聖子:変革する公設試の新たな挑戦, 産学官連携ジャーナル, 8(11), 4-7, 2012.

・入山章栄:『世界の経営学者はいま何を考えているのか』, 英治出版, 2012.

・林聖子:シリコンシーベルト福岡プロジェクトにおける最先端システムLSI開発拠点の構築—三次元半導体研究センターと社会システム実証センター, 産業立地, 50(5), 50-53, 2011.

・林聖子, 田辺孝二:サッポロバレーのIT産業集積発展プロセスとヒューマンネットワークの果たした役割, 日本地域政策研究, 第8号, 121-128, 2010.

・林聖子, 田辺孝二:地域中小企業のイノベーション創出を促進する仙台堀切川モデルの考察, 産学連携学, 7(1), 31-41, 2010.

・アナリー・サクセニアン, 山形浩生訳:『現代の二都物語』, 日経BP社, 2009.

・ヘンリーチェスブロウ, ウィムヴァンハーベク, ジョエルウェスト, PRTM監修, 長尾

高弘翻訳：『オープンイノベーション—組織を越えたネットワークが成長を加速する』，
栄治出版，2008.

・佐々木直彦：『プロデュース能力—ビジョンを形にする問題解決の思考と行動，日本能
率協会マネジメントセンター，2008.

・ヘンリーチェスブロウ，大前恵一朗翻訳：『OPEN INNOVATION—ハーバード流イノベ
ーション戦略のすべて』，産能大出版部，2004.

・内容が関連している「地域コンテンツプロデュース論」をあわせて受講することを推奨
する。

履修上の留
意点

・授業での積極的な発言、グループワーク（ディスカッションとプレゼンテーションの検
討）への熱心で協調性ある参加を求める。

・毎回の授業は連続又は関連しているので、欠席(無断欠席厳禁)した際には授業支援シス
テムmanaba掲載内容を確認し、授業配布資料を熟読して学習し、課題を提出すること。

・授業改善のための学生アンケートを実施する。

更新日

2025/3/19

開設	都市創造学科
科目ナンバー	2016～2019年入学生：UE313 2020年入学生～：UC216
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1UC002800
講義名	スマートシティ開発の実務
担当者名	岡村 久和
開講情報	春期 水曜日 1時限 526教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U

備考 実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨 先端技術を駆使した環境配慮型都市であるスマートシティ開発の実例を、生活者の視点で考察する科目。スマートシティの開発には、電力会社やガス会社、電気機器企業、通信業者などさまざまな産業分野の企業の連携が欠かせない。一方でこうした多様な企業の関与するスマートシティ開発プロジェクトには、中心となる企業の強力なリーダーシップが求められる。スマートシティ開発の事例を解説し、開発推進企業のリーダーシップのあり方を考える。

渋谷 または 三鷹市スマートシティ協議会への企業提案と言う前提で学習と提案活動を行う

スマートシティは都市づくりと同義語であるが、巨大なビジネスエリアとして認識する必要がある。

この授業では、将来の就職先の産業などを前提にして、学生の進もうとするそれぞれの産業と都市づくりへの具体的なビジネスの結びつきを研究していく

また SDGs と CSR の観点でのスマートシティの進むべき道についても考える

授業の内容 例えば鉄道企業はスマートシティでどのようなビジネスで、どの地域で何を売って行くのか？就職面接のときに、街づくりの観点で個人個人の学生が何のビジネスモデルを提案できるのかなど、かなり具体的なビジネス戦略を立てて行く

担当教員 岡村久和は、日本アイ・ビー・エムでのスマートシティ事業部長としての経験を活かし、極めて現実に近い形のスマートシティの産業としての

基本戦略や授業構築方法を指導していく、またその経験から多くの日本または海外の自治体のステークホルダーを招き学生に直接提案させることで

実際の業務コンペを疑似的に体験させる。

昨年は三鷹市の企画部長、一昨年は渋谷のスマートシティプロジェクト常務に実際に学生が提案を行い審査と採点順位付けを行った

スマートシティへの企業提案を作りプレゼンが出来るようになる

科目の到達目標 (理解のレベル) スマートシティを巨大なビジネスエリアとして理解し、その中で利益の出るビジネスを発想できるようになる

自分の進路と 都市創造学部での学習事項を完全に結びつけて語れるようになる

授業形態 講義

授業方法 講義および小グループディスカッション 小グループでの課題討議とプレゼンテーションも含まれます

プレゼンテーション

レポート提出など

【第1回】都市についての定義

講義 国際的スマートシティの概要
日本と海外の大きなギャップについて

【第2回】事例の学習 日本の事例

講義やデモ映像
日本のスマートシティ事例の研究
ディスカッション
自らの出身地の都市を考える

【第3回】事例の学習・演習 SDGs

講義 SDGsの基本理解と国連の本質的な狙い
ワーク SDGsにおける都市への期待と目標について研究しディスカッションする

【第4回】事例の学習 海外事例

講義 海外のスマートシティにおける 3種類のスタンダード事例を研究する
ワーク 事例を選び研究し発表する

【第5回】事例の学習・演習 SDGs

ワーク SDGsと都市について169の目標から詳細に選択しスマートシティとしての
戦略を挙げる

【第6回】小グループでの都市の選択

講義 国際的スマートシティ 渋谷
ワーク 渋谷に関して調べディスカッション

授業計画

【第7回】対象都市の調査

ワーク 渋谷について 自分の狙う地区や機能を選択する

【第8回】対象都市における課題の仮説作成

ワーク 渋谷の課題を抽出する
課題の本質を書きあげる

【第9回】事例の学習 グループ選択事例

ワーク ソリューションの決定
渋谷の何の課題を解決するのか、利益は何か

【第10回】事例の学習・演習 グループ選択事例

ワーク ソリューションの提案書作成

【第11回】プロジェクト作成

ワーク ソリューションと渋谷の協議会への主張を合わせる活動

【第12回】プロジェクト演習

ワーク 選択ソリューションの渋谷協議会への提案実行

【第13回】ディスカッションとプレゼンテーション

ワーク 選択ソリューションの渋谷協議会への提案実行
提案に対する渋谷都市協議会としての評価まとめ

事前・事後
学修に必要な時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後
学修の内容

都市とは何か、自分で解決したい都市課題とは何か
一方で都市に欲しいソリューションは何か、自分の趣味と都市と言う視点で都市の機能や大切な物を考えておく

自分の住んでいる都市、または育った都市について調べておく
書籍などの資料による事前学習だけでなく実際に渋谷に行きフィールドワークを行ったりインタビューをすることも数多く行う

成績評価方法・基準

平常点 20%

授業中の積極性評価 30%

演習レポート および プレゼンテーション 50%

期末試験は無し

課題（試験
やレポート
等）について
のフィードバック
方法

本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。

教科書・指
定図書

Kindleで購入

<https://www.amazon.co.jp/>スマートシティ-スマートシティはビジネスでなければならぬ-国際スマートシティビジネス-スマートシティJAPAN-岡村久和-ebook/dp/B088FNRCQC

履修上の留
意点

毎回必ず出席する事

レポートやプレゼンテーションも多く、欠席した分だけ評価が無くなる事を意識する事

更新日

事前の下調べが必要 図書館に行く習慣を身に着ける

2025/3/19

開設	都市創造学科
科目ナンバー	2016～2019年入学生：UE316 2020年入学生～：UC309
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1UC002900
講義名	都市と金融
担当者名	赤羽 裕
開講情報	秋期 火曜日 1時限 234教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U

備考 実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨 都市機能の一つである金融機能のあり方を理解し、金融機能の盛衰が都市にもたらす課題を考え、ソリューションを検討する科目。都市の発達は産業部門の発達によって支えられるところが大きい。産業部門の発達には資金を要する故に、都市の発達の背景には、金融機能の発達が不可欠となる。

授業の内容 企業活動やまちづくりにも必要となる「金融」の役割・機能の基本を理解する。合わせて、企業やインフラ整備に関する資金調達やアジア諸国でのインフラ整備の資金ニーズや対応についても学ぶ。なお、この科目では、担当教員はみずほ銀行での実務経験も活かし、現実の金融取引やその仕組みに関する実践的な教育も行う。

科目の到達目標（理解のレベル）

1. 基本的な金融の役割・機能を理解し、概要を自分の言葉で説明できるようにする。
2. 企業やインフラ整備に関する資金計画の考え方を理解する。
3. アジア都市のインフラ整備状況と資金調達の状況を理解する。

授業形態 講義

授業方法 企業、都市インフラ、アジア、それぞれのテーマでの資金調達に関する概要を講義する。各テーマに関連付けて、教科書に沿った講義を実施。各テーマあるいは昨今の金融のニュースに関して、可能な範囲でグループディスカッションを行う。講義形式の場合も、質疑応答の時間を確保し、双方向の授業を行う。

【第1回】ガイダンス

【第2回】「企業における資金調達」

【第3回】金融入門（その1）

- (1) 現在財同士の交換と貨幣
- (2) 現在財と将来財の交換
- (3) リスクの変換：将来財同士の交換

【第4回】金融入門（その2）

- (1) 銀行の役割
- (2) 銀行の脆弱性
- (3) まとめ

【第5回】グループディスカッション
グループディスカッション

【第6回】ファイナンス入門

- (1) リスクとリターン
- (2) 債券利回りの決定

授業計画	<p>(3) 金融資本市場のインフラ (4) まとめ</p> <p>【第7回】「都市インフラ整備に伴う資金調達」</p> <p>【第8回】「アジアの都市開発と資金調達」</p> <p>【第9回】金融論応用 (1) 金融政策 (2) 非伝統的金融政策 (3) 国際金融の理論 (4) まとめ</p> <p>【第10回】グループディスカッション グループディスカッション</p> <p>【第11回】ケーススタディ(1)(2) 「都市と金融」に関わる事例説明 (昨年度テーマ) (1) ヒューリック株式会社の事業戦略 (2) 大手町「連鎖型都市再生プロジェクト」と三菱地所の資金調達</p> <p>【第12回】授業の振り返りとフリーディスカッション</p> <p>【第13回】総合演習と解説</p>
事前・事後学修に必要な時間	本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。
事前・事後学修の内容	教科書および3件のテーマの講義に対しては、事前に示す例題を解くなどの予習、講義スライド確認による復習を行うこと。グループディスカッションに関しては、ミニレポートを事前に課すので、事前提出のうえ、ディスカッションに備えること。
成績評価方法・基準	<p>①総合演習（下記補足説明①に留意すること）40%、②課題・提出物40%、③平常点20%</p> <p><補足説明> ①第13回目時間内に実施するテスト形式の演習。時間内に解説を実施する ②中間レポート1件のほかグループディスカッション時に作成・提出するミニレポート ③グループディスカッションへの主体的参加、質疑応答の的確さ、積極的な発言など</p>
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。
教科書・指定図書	<p>(教科書) 植田和男(2017)『大学4年間の金融学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA スライド：教科書外のテーマを取扱う回には、講義用スライドを中心に説明する。</p> <p>(指定図書) 都市ソリューション研究会編(2015)『都市輸出 都市ソリューションが拓く未来』東洋経済新報社</p>
履修上の留意点	授業運営方法につき説明するため、履修予定者は、初回のガイダンスに必ず出席のこと。双方向の授業実現のため、授業への積極的な参加姿勢を期待する。企業や金融の動きを把握するため、日本経済新聞を読む習慣を身につける努力をすること。 なお、グループディスカッションの実施有無、実施要領は学生数による。

更新日 2025/3/19

開設	都市創造学科
科目ナンバー	2016～2019年入学生：UE321 2020年入学生～：UC215
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1UC003000
講義名	PPP/PFIと都市開発
担当者名	李 立栄
開講情報	春期 火曜日 2時限 234教室
単位数	2
受講可能学部	B/E/L/I/C/U
備考	実務経験のある教員による授業科目である。

科目の趣旨	都市開発に民間活力を導入する手法の理解と事例の検討を通じ、都市と民間のより良い結合を考える科目。公民が連携して公共サービスの提供を行うスキームをPPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ：公民連携）と呼ぶ。PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）は、公共施工等の設計、建設、維持管理及び運営に、民間の資金とノウハウを活用し、公共サービスの提供を民間主導で行うことで、効率的かつ効果的な公共サービスの提供を図るという考え方である。PFIはPPPの代表的な手法の一つであるとされる。PFIを中心にPPPの実例と課題、将来的な発展の可能性を考える。
授業の内容	本講義では、まず、PPP/PFIの概念や基本的な考え方を学んだ後、PPP/PFI発展の歴史とさまざまな形態を学ぶ。次に、PPP/PFIの先進国であるイギリスの事例を学ぶ。イギリスでは、公立学校、市役所、図書館、空港など身近な公共施設について、可能な限り民間手法によって運営管理することが求められており、PPP/PFIの成功事例が多く存在する。イギリスの公民連携による街づくりの実践について学習を通じてPPP/PFIの具体的な理解を深める。 後半の授業では、わが国の金融行政、金融実務家や、実務経験豊かな有識者や専門家を招いて、公民連携およびその周辺領域にまで分野を拡大し、都市開発・都市経営に果たす金融やデジタル技術の役割を学ぶ機会を提供する。また、この授業は担当教員の実務経験を活かしながら行う。
科目の到達目標 （理解のレベル）	①PPP/PFIと都市開発に関する基礎概念・専門用語について説明できるとともに、公民連携の仕組みを体系的に理解している。 ②グラフや図式を用いて、内外のPPP/PFIの先進事例について独自の意見をまとめることができる。 ③PPP/PFIの実務にも役立つプロジェクトファイナンスの仕組みを理解する。
授業形態	講義
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に講義形式で実施する。なお、履修生の人数と関心に応じて、ゼミ形式のプレゼンテーションと討論法も導入を検討する ・アクティブラーニング ・講義中、講義内容に関連した動画を視聴し、感想文などの課題を毎回提出してもらう。
	<p>【第1回】イントロダクション：なぜ都市の活性化と持続的発展が必要なのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容：世界の都市総合ランキング（GPCI）と世界の都市の「国際競争力」ランキング（世界における東京の位置づけ）、21世紀における都市・地域問題のメカニズム、都市のイノベーション、ポストコロナのデジタル都市 <p>【第2回】都市政策と国土計画・首都圏計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容：戦後の国土計画と首都圏計画の変遷、東京の歴史、都市計画と公共施設、PPP/PFI推進アクションプラン（平成30年改訂版） <p>【第3回】公共施設と公民連携（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容：公民連携の歴史、PPPの概念・意義・必要性・分類、日本の公民連携の事例

授業計画	<p>【第4回】 公共施設と公民連携（2） ・内容：イギリスのPPP/PFIの動向と特徴、民間の力を引き出すイギリスの公民連携の事例</p> <p>【第5回】 PFI事業の資金の流れ ・内容：PFIとは、PFI事業の関連主体、PFI事業のファイナンスの特徴、PFI事業に必要な資金</p> <p>【第6回】 PFI事業におけるファイナンスの特徴 ・内容：SPCの設立、プロジェクトファイナンス</p> <p>【第7回】 PFI事業の事例分析 ・内容：民営化するメリットとデメリット、日本・アジアの事例</p> <p>【第8回】 事業者の選定プロセスと事業の成否を握る鍵 ・内容：選定プロセスの仕組み、ケーススタディ</p> <p>【第9回】 公共施設等運営方式（コンセッション方式）とその最新事例 ・内容：コンセッション方式とは、内外の最新事例の紹介</p> <p>【第10回】 公共施設の老朽化問題 ・内容：老朽化の現状と課題、今後の展望（新しい公共施設のあり方）</p> <p>【第11回】 デジタルを活用した都市の活性化 ・内容：ポストコロナのデジタル都市、都市とイノベーション、内外の事例分析</p> <p>【第12回】 DXを推進するスマートシティへの応用 ・内容：DXとは、公共資産の活用とスマートシティ、内外の事例分析</p> <p>【第13回】 SDG s と都市開発の持続的な発展、全体総括 ・内容：SDG s とは、都市の持続的な発展と海外事例・国際的な比較、全体のまとめ</p>
事前・事後学修に必要な時間	<p>本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。</p>
事前・事後学修の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットやテキスト、参考文献などを通じて各回の講義内容のキーワードを事前に調べて、質問を考えてください。 ・新聞・テレビ、インターネット等で報じられる様々なPPP/PFIと都市開発の動向に日々関心と問題意識を持つておくことが望まれる。 ・毎回の授業内容と参考資料を復習し、疑問点があれば積極的に質問してください。
成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に、授業内小テストや発表内容等による授業理解度（50%）、期末レポート等（50%）の成績によって評価する。
課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法	<p>本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくはmanaba上でおこなう。</p>
教科書・指	<ul style="list-style-type: none"> ・越直美（2021年）『公民連携まちづくりの実践 公共資産の活用とスマートシティ』学芸出版社 ・株式会社民間資金等活用事業推進機構編著（2020年）『PFIのファイナンスの実務』中央経済社 ・株式会社民間資金等活用事業推進機構編著（2021年）『公共施設別公民連携ハンドブック』中央経済社 ・坂井文（2021年）『イギリスとアメリカの公共空間マネジメント: 公民連携の手法と事例』学芸出版社 ・特定非営利活動法人日本PFI協会（2006年）『PFIの資金調達—プロジェクトファイナンス』

定図書	<p>ス実例研究 金融機関と民間事業者が明かすノウハウ』日刊建設工業新聞社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堀切聡（2021年）『わかりやすいプロジェクトファイナンスによる資金調達ーインフラ投資を実現する』税務経理協会 ・山内弘隆編著（2014）『運輸・交通インフラと民力活用:PPP/PFIのファイナンスとガバナンス』慶応義塾大学出版会 <p>なお、講義レジメ（パワーポイント資料）と参考資料を毎回manabaに掲示する。また、参考図書を適宜紹介する。</p>
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回授業中、学内の課題管理ソフトを利用し、各自のスマートフォンを活用して講義中視聴したPPP/PFIと都市開発の関連ビデオの課題・感想文を提出してもらおう。また、毎回講義終了前に10分間の質問の時間を設けるので、積極的に活用されたい。 ・必須ではないが、ファイナンス論を履修しておくことが望ましい。また、公民連携分野の卒業研究をする学生は、本講義を受講することが望ましい。さらに、新聞・テレビ等で報道された様々なPPP/PFIと都市開発の記事や、経済・金融・ファイナンス問題に日々関心を持つことが求められる。
更新日	2025/3/19

開設	都市創造学科
科目ナンバー	2016～2019年入学生：UA324 2020年入学生～：UE204
カリキュラム・マップ（学位授与方針との関連）	https://www.asia-u.ac.jp/academics/syllabus.html
講義コード	1UE001700
講義名	メガシティ論
担当者名	新井 健一郎
開講情報	春期 金曜日 2時限 526教室
単位数	2
受講可能学部	B/L/U

備考

科目の趣旨 都市の巨大化の進行に伴い生ずる問題を特にメガシティを対象に、コンパクトシティの概念も考慮しながら検討する科目。メガシティは地域居住者**1000**万人以上の巨大都市を指し、東京を筆頭に**20**以上の都市がメガシティとされる。特に、成長著しいアジアの諸都市は、矛盾をはらみつつ巨大化し、メガシティの多くはアジアに位置している。こうしたアジア諸都市の問題を直視し、東京の経験をどのように生かしていくのか、都市における社会の観点から考察する。

メガシティとは、地域居住者**1000**万人以上の巨大都市を指します。
 現在私たちが暮らす東京やその近隣の市や県のかなりの部分を覆ってしまうような、巨大な都市圏を指しています。したがって、個別の自治体の枠の中だけで考えていても、その特徴も課題も理解できません。

授業の内容 私たちの住む東京圏は世界最大のメガシティですが、メガシティの数は増えています。そのうち半分以上がアジアにあります。

こうしたアジア諸都市は、それより先に大都市が成長した欧米の大都市や東京とどう違うのでしょうか。欧米や東京の経験は、他地域のメガシティにどこまで当てはまるのでしょうか。

こうした疑問に答えるには、都市を大きな視点から総合的に見る必要があります。そのため、この講義では、世界のメガシティを、風土（生態環境）・人口の動き・政治経済の3つの角度から比べていきます。

科目の到達目標
 （理解のレベル） 都市とは何かを、生態環境（風土）・人口の動き・政治経済から総合的に考える視点を身につけ、複雑で巨大な都市の個性を複眼的に分かるようになることが目標です。

授業形態 講義

授業方法 基本的に、教室での対面講義です。
 パワーポイントと口頭での解説で講義を進めます。
 毎回、講義中に、1~2問、**respon**により簡単なクイズや問題があります。
 また、毎回講義後に**manaba**で小テストがあります（講義日当日または翌日中のみテストを受けられます）。
 重要な連絡は**manaba**のこの講義のコースニュースで行いますので、毎週必コースニュースをチェックするようにしてください。

【第1回】そもそも都市って何だろう？

都市を総合的に考えるために、まず都市とは何かを人類の長い歴史の中から考えてみましょう。

【第2回】メガシティって何だろう？：メガシティを、風土・人口の動き・政治経済の三つの要素から捉える視点を紹介します。この講義の基本的な視点を紹介する回です。

【第3回】世界のメガシティを俯瞰してみよう（人口編）：世界のメガシティを理解する上で、人口の変化と、それが起こるタイミングは決定的に重要です。人口という視点から、世界のメガシティを見ていきましょう。

【第4回】世界のメガシティを俯瞰してみよう（風土編 その1）
異なる生態環境・風土の違いも、メガシティを理解する上で重要です。世界のメガシティを、生態圏という視点から説明します。

【第5回】世界のメガシティを俯瞰してみよう（風土編 その2）

【第6回】政治経済編：世界システムの中の都市
都市を、グローバルな政治経済の仕組みの中で捉える視点を紹介します。国を超えた政治経済の枠組みは、大都市の盛衰にどのような影響を与えてきたのでしょうか。ロンドンやニューヨークを例に取り上げます。

【第7回】水田が生み出したメガシティ：世界最大のメガシティである東京の特徴は、稲作アジアの風土との深い関わりの中で形作られました。生態環境と歴史の両方から東京の個性を知ることができます。

【第8回】モンスーン・アジアのメガシティと交通革命
近代以降の大都市は、鉱物エネルギーを利用した交通・運輸手段に深く依存して発達してきました。アジア都市の抱える課題を、交通の視点から見てみましょう。

【第9回】モンスーン・アジア・メガシティの工業化
日本の首都圏とアジア諸国のメガシティの違いを、工業化のタイミングと性格の違いという側面から見てみましょう。

【第10回】南関東メガシティと住宅問題
都市にとって大きな課題である郊外化や住宅不足への取り組みを、日本の首都圏（南関東メガシティ）の経験から見ていきます。

【第11回】メガシティと水環境：モンスーン・アジアのメガシティ東京は、河川と水の課題にどのように取り組んできたのでしょうか。台風の水害・洪水など、今の都市の課題を見る上で大事なトピックを取り上げます。

【第12回】南関東メガシティ：世界トップの少子高齢化の中で
異なる都市は、人口の動きによって異なる課題を抱えます。現在の東京圏は、少子高齢化と人口の減少という課題では課題先進都市です。少子高齢化は、メガシティにどのような影響を与えているのでしょうか。

【第13回】南関東メガシティ：グローバル化と多民族化
異なる都市は、人口の動きによって異なる課題を抱えます。多数の外国人の出入りによって支えられるようになった南関東メガシティの課題について学びましょう。

授業計画

事前・事後 学修に必要な時間

本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回について、4時間半程度である。

事前・事後 学修の内容

講義では、内容をきちんと理解するため、毎回manabaを使った小テストを講義後に取り組みでまらいます。

小テストに答えるためには、講義資料を注意深く読み直したり、関連して自分で調べる必要があります。そのことで、講義内容の理解をさらに深める、発展させることができます。この小テストを回答する過程で、しっかりと復習や発展学習を行ってください。

小テストは講義当日または翌日中だけ提出できます。

成績評価方法・基準

期末試験は行わず、各回の小テストの合計**100%**で評価します。小テストは各回約8点で、それを積算します。小テストを1回未提出なだけで、あっという間に成績が1段回近く落ちるリスクがありますので、気をつけましょう。期末テストによって評価しないため、期末テストで挽回することはできません。きちんと毎回講義を受講し、小テストを丁寧に解き、提出し、正解を積み重ねること以外に、単位を取る方法はありません。

課題（試験やレポート等）についてのフィードバック方法

本授業での課題（試験やレポート等）の講評・解説については授業内（口頭）もしくは**manaba**上で行います。

教科書・指定図書

教科書は指定しません。以下の1冊が一番大事な参考書ですが、その他多数の参考書を講義の中でその都度紹介します。また、多くの回で、授業を理解するのに必要な参考文献の一部抜粋の**PDF**を、**manaba**を通じて提供します。

村松伸／深見奈緒子／山田協太／内山愉太**2016**『メガシティ2　メガシティの進化と多様性』東京大学出版会

履修上の留意点

ノートを取るための補助となる下線部書き込み式のプリントや、小テストに必要な補足資料などは、**manaba**のコースニュースを通じて**PDF**ファイルの形で事前に配布します。下線部書き込み式プリントは、自分でプリントアウトして、講義日に持参してください。

受講の前提条件はありませんが、「グローバル都市の政策」「フィールドワークとデータ分析」と相互に関連しているので、これら他の講義を受講すると、より深く内容が理解できるでしょう。

更新日

2025/3/19